

★ まちづくり ニュース



ホームページ

<https://tokiwadai.net/>

266号

★ 2024年2月28日



常盤台の景観を守る会
常盤台まちづくり委員会

事務局 島田晴子 tel・fax 3960 - 3869

— 都心低空飛行問題について —

○ 裁判はいま

進行協議が3月7日11時から419号法廷で傍聴者無しで開かれます。

○ JAL機と海保機の事故

「羽田問題解決プロジェクト」は今回の事故の要因を、現時点では海保機、管制、JAL機それぞれの対処の問題で発生したのが基本と考え、管制体制の脆弱性及び羽田空港の構造的処理能力の限界などについて様々な知見が出てくれば対応も異なってくるであろうとし、当面はそれに該当するエビデンスに関して資料収集を始めています。

原告の酒井さん(81)が亡くなりました。騒音被害の影響もあったのではないかと言われています。原告として以下のような冷静な主張を述べていました。残念です。

リスクという概念は「事態の発生可能性×事態が生じた場合の大きさ」で計算される。都心低空飛行によってひとたび事故が発生した場合の甚大な被害を考えれば、仮に墜落の可能性が相当程度に小さいとしても都心低空飛行は止めるべき。

○ サクラ並木の伐採

上板橋第一中学校と石神井の間にある桜並木は毎年見事な桜のトンネルになるのですが、上板橋第一中学校の建て替えの際に伐られようとしているそうです。物言わぬ樹木は明治神宮外苑の例のように心ある人達が声を上げなければ無抵抗に切られていくばかりです。

○ 紛らわしい「まちづくりニュース」 —区が主導する「まちづくり」とは—

2~4日にポストに入っていたチラシをこの「まちづくりニュース」と勘違いした人もいたようです。内容にも不可解なことが多かったため、5日に担当の方と面談してきました。景観を守る会としては以下の3点を要望・主張してきました。

- 1, 常盤台北口と南口は全く違う街なので、上板橋や大山のように分けるべき
- 2, 常盤台1・2丁目は既にまちづくり団体としてしゃれ街協議会や常盤台の景観を守る会が活動しているので協議会に参加させるべきではないか
- 3, 「まちづくりニュース」の名称は平成2年に常盤台1・2丁目町会の中に作られた「まちづくり委員会」が発行し、それを受け継いだ常盤台の景観を守る会が20年間毎月1回配布されているので、別名を考えてほしい

後に区から「電話対応メモ」の形で回答がありました。

- ③は地域の方々が混乱しないようにする
- ①は南北一体で進めていくこととしており、常盤台1・2丁目だけを活動範囲から外すことはできない
- ②は定期的に直接会える場を設け、両者からの意見を協議会に伝えるという関係を作る

というものでした。(趣旨を抜粋)

町会長と商店会長だけを集めた非公開の勉強会で準備し、今回作る協議会にも7町会長と5商店会長が決まっており、公募は8人、19日の締め切りまでに70名の応募があったそうですが、区が狙うまちづくりとは何なのでしょうか。

常盤台には空襲がなかったことについて、上空から整然とした街並みを見て、終戦後の住宅としての利用を考えて爆撃しなかったのだ、とするうがった説がありました。それが正しいかは不明ですが、一軒まるごと米軍の家族のために接收された例が多かったのは事実です。

また、昔の日本家屋は玄関の脇に使用人が住む小部屋がありました。その部屋を進駐軍の関係者に貸していた家が何軒もありました。収入に困っていたのは何処も同じ、借りたい人もいれば斡旋する人もいたことでしょう。Mさんの家も「いいお金になりますよ」と言われたそうです。Mさんの弟はユージン、ブラディー、セドアと言った子供たちと仲良く遊んだそうですが、混血の子達は「パンパンの子」などと言われ差別やいじめにあったようでした。

数年後、光が丘の方にグラントハイツが出来あがると、徐々に常盤台から米軍の関係者は消えていきました。Mさんの記憶では、黒人の夫と白人の妻のカップルは軍の集団の中では居づらいつのか、ハイツに移住せず長い間常盤台に住んでいたそうです。朝鮮戦争の時は通過する列車の窓からチヨコレートやガムを米兵が投げてくださいました。その兵士達も何人も戦死したのです。うね、とMさん(二丁目在住)は語ってくださいました。

マナーではなくルール

信号の無い道路を渡ろうとすると、以前はスゴい勢いで通り過ぎていくので、怖ず怖ず車が通り過ぎるのを待っていたことが多かったのですが、最近では車の方で止まって待ってくれるようになりました。

これはマナーではなく、ルールとなったのだそうです。すべて法というものは弱者救済のためにあるものだと解釈されます。ハムラビ法典の「目には目を、歯には歯を」も正反對のようで公正さを求める根底にあるものは同じかも知れません。車と人は対等でしょうか。圧倒的に弱い人間の命を守るために信号機は設置されているのではないのでしょうか。

H・S

犬の排泄物の処理

二十年ほど前、常盤台住民が迷惑していたのは、散歩に連れ出された犬の排泄物がそのまま放置されていたことでした。当時は今のように入飼い主さんで処理用のバッグを携帯している人は少なく、道の真ん中にごろごろしていました。現在ではマナーが行き届き、中には洗い流すために水を入れたペットボトルまで持っている人もいます。

と思っていたら、またまた大型犬のものらしいウンチがクルドサクク辺りの道にみかけられるので、門の前に残された家では、特に下痢気味のものの後始末に困っていました。

大型犬は特に外に出す前に大も小もさせて欲しいですね。

常盤台公園のはなづくり

二月五日、珍しく雪が積もったので、公園のパンジーたちは元気だろうか心配になりましたが、雪も早く溶け、パンジーやビオラも健気に咲いていました。

間からチューリップの小さな花芽がつつんと出ています。春になればぐんぐん成長して美しい花を見せてくれるのですから、植物の力は強いものです。

人間が植物のように伸びることができないのは子供の時だけ。公園では保育園や幼稚園の子供たちがいつも元気に走り回っています。付き添いの保育士さんものはじき飛ばされそうなエネルギーです。

思春期ごろのお嬢さん達がアイドルに向かってあげる声を黄色い声と良く言いますが、小鳥の雛の色を連想するせいか、幼児たちの声を黄色いと表現するのが適当に思えます。こんな可愛い子達を虐待したり死に追い詰めたりする親は想像もできません。

今公園で見かける鳥はヒヨドリが多く、ウメやモモが咲き出したのでメジロの声も聞こえます。心配なのはスズメがぐんと少なくなりました。ハクビシンに雛や卵を取られていないか、カラスやツミに捕食されていないか、ど

